

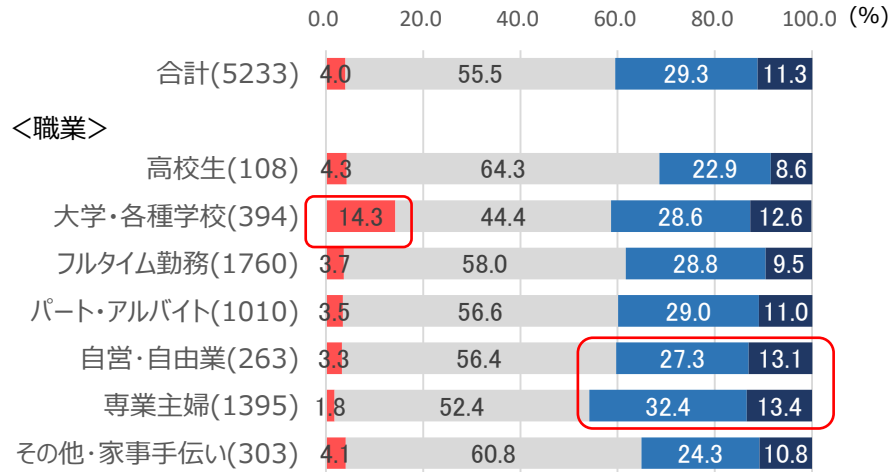


サロンのユーザー調査 2020年 ハイライト版

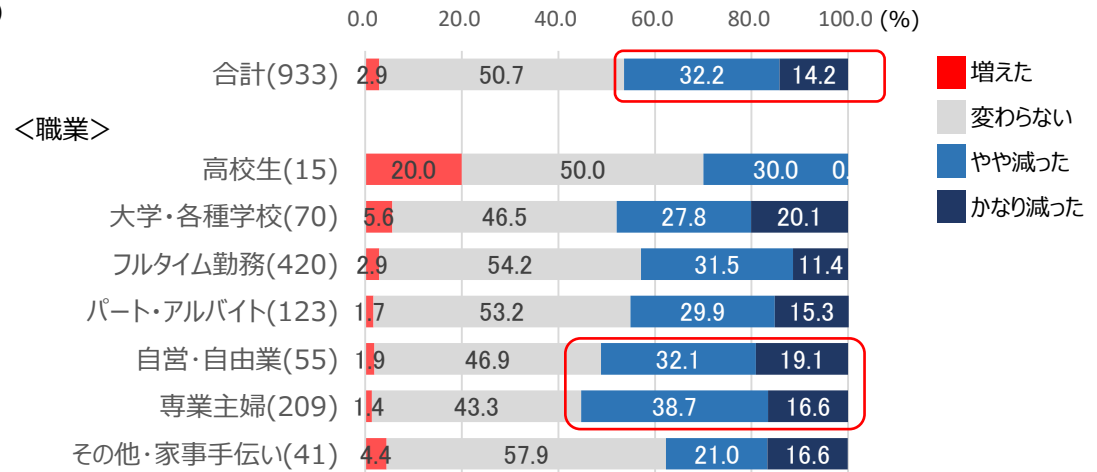
新型コロナの影響① サロン利用頻度の変化

- 利用頻度が（やや／かなり）減った人の割合は、全国平均で40.6%でした。東京（46.4%）は5pt以上高くなっています。
- 職業別にみると、自営・自由業、専業主婦で、減った人が多くなっています。高校生や大学生では増えた人も一定数いるようです。
- 全国的には、スタッフ1人の店舗では利用頻度が減った人は比較的少なく、スタッフ数が多いほど利用頻度が減った人の割合がわずかずつ上がっていますが、東京では2～4人の小規模店でもかなり高くなっています。

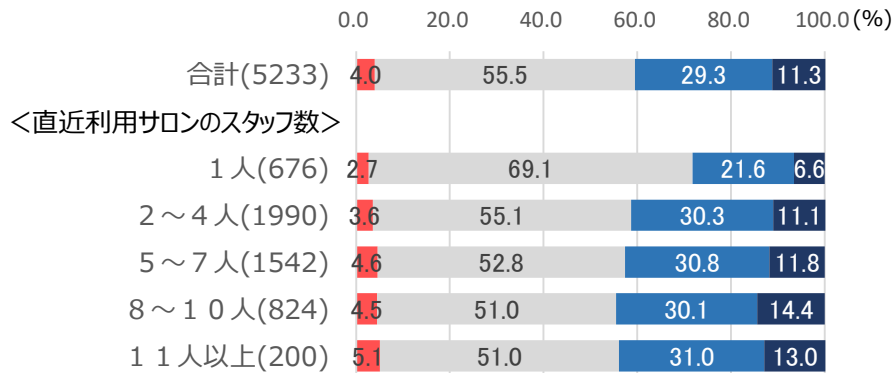
全国



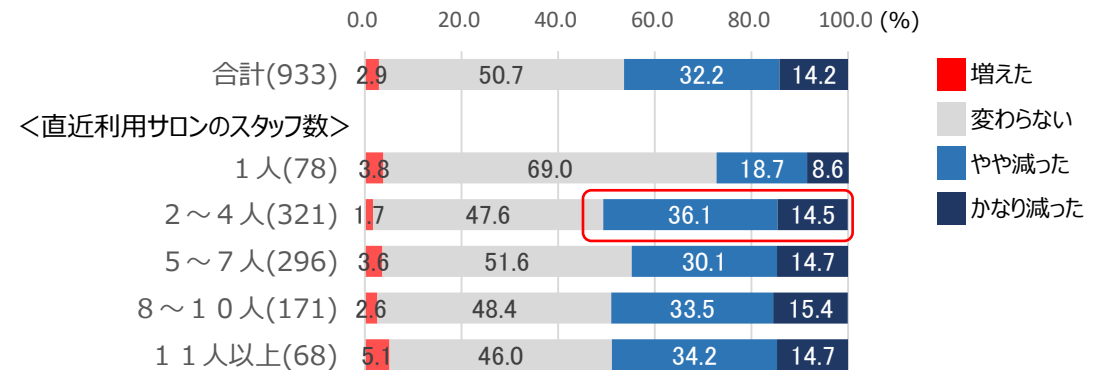
東京



全国

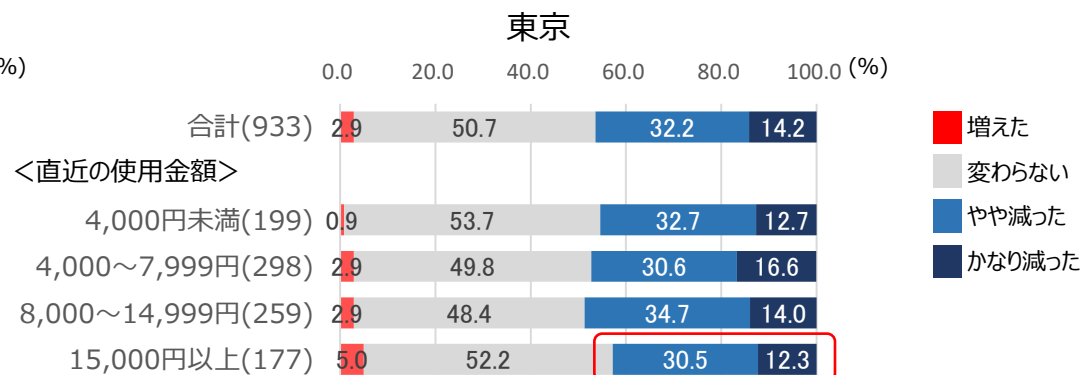
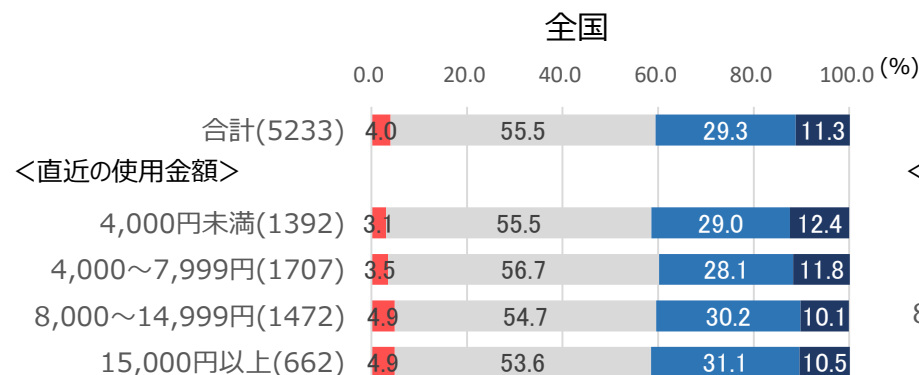
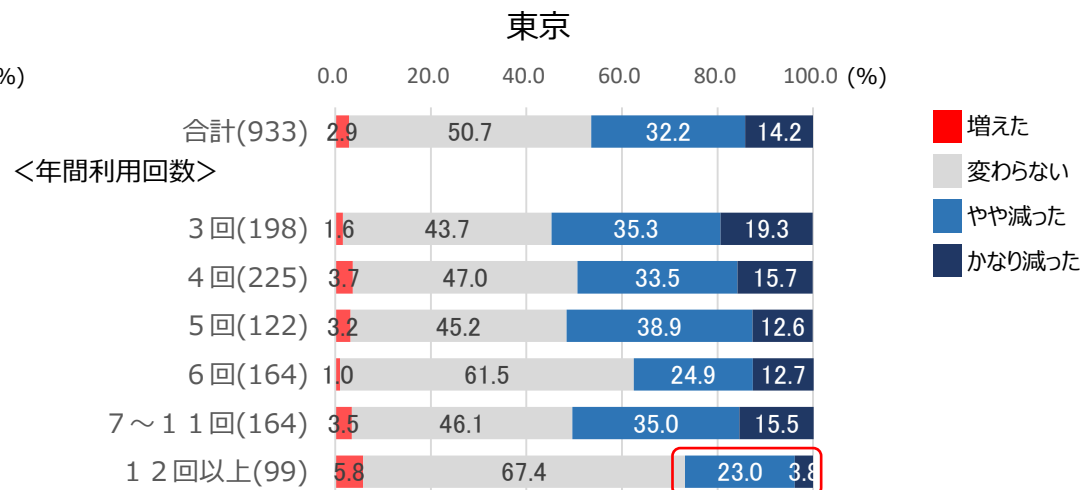
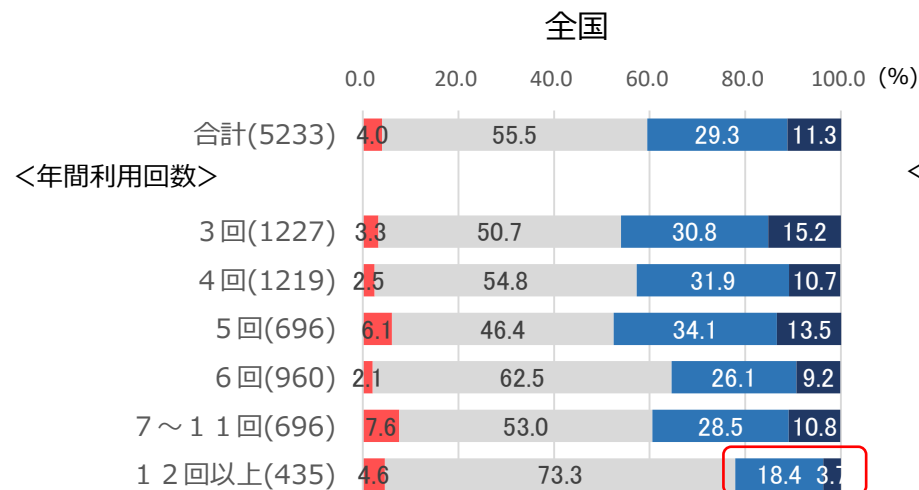


東京



新型コロナの影響① サロン利用頻度の変化

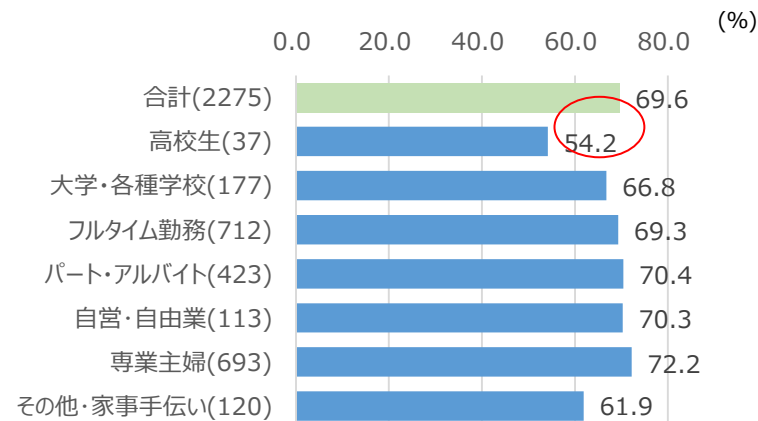
- 年間利用回数が多い＝普段から頻繁に来店している層ほど、新型コロナの影響で利用頻度が減った人の割合が低い傾向がみられます。特に年間12回以上＝月1回以上のペースで来店している層は全体平均の半分程度です。
- 全国的には、直近の使用金額と利用頻度の変化に相関性はほとんどみられません。東京では15,000円以上の層で、回数が減った人の割合がやや下がっています。



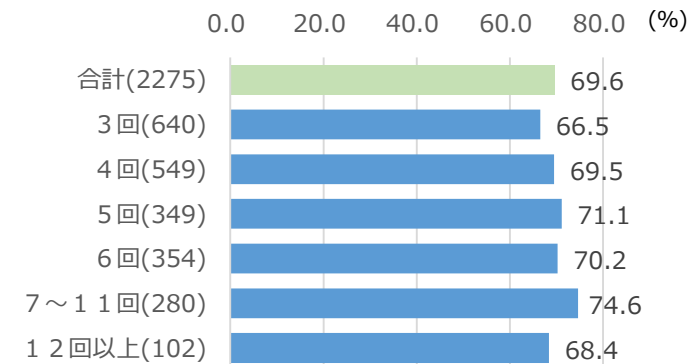
【新型コロナによりステイホームだった】

- 利用頻度が減った人のうち、約70%が「新型コロナによりステイホームだった」を理由としてあげています。
- スタッフ数が多い(8人～)店舗の利用者や、直近の使用金額が高い層(8,000円～)でややスコアが高くなっている一方で、高校生や直近の使用金額が4,000円未満の層ではかなり低めです。

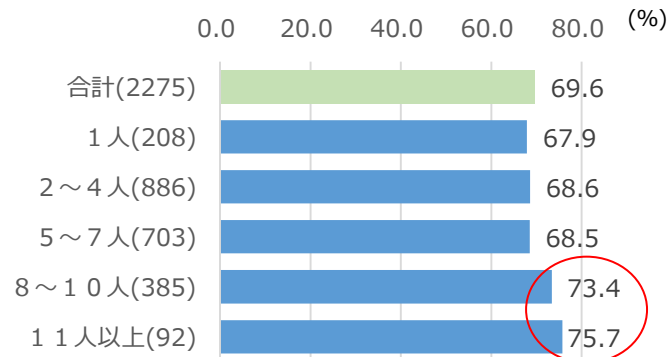
＜職業＞



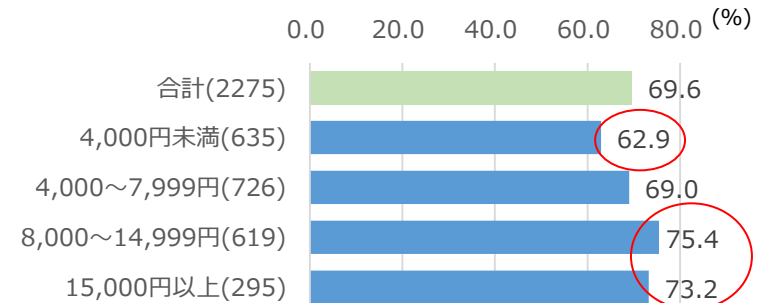
＜年間利用回数＞



＜直近利用サロンのスタッフ数＞



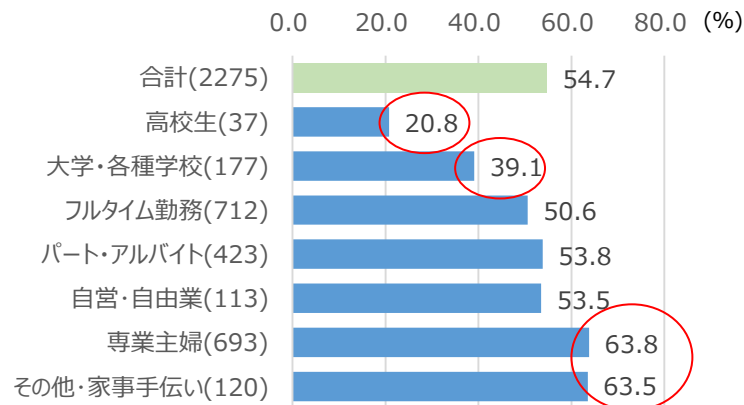
＜直近利用サロンでの使用金額＞



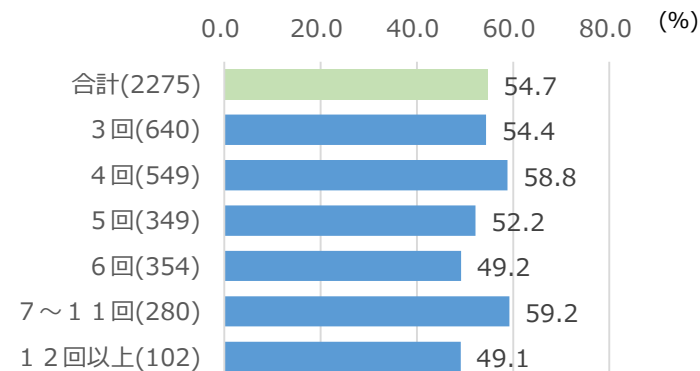
【外出による新型コロナ感染のリスクを回避】

- 利用頻度が減った人のうち、約55%が「外出による新型コロナ感染のリスクを回避」をあげています。
- 職業によって反応に大きな違いがみられます。高校生、大学・各種学校生では非常に低く、専業主婦やその他・家事手伝いで高めです。
- 直近の使用金額でみると、15,000円以上の層でやや低いスコアになっています。

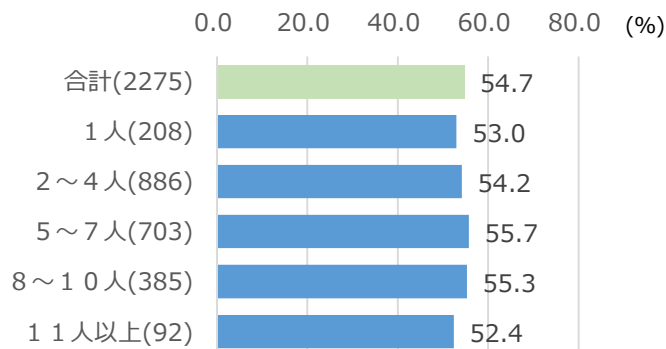
＜職業＞



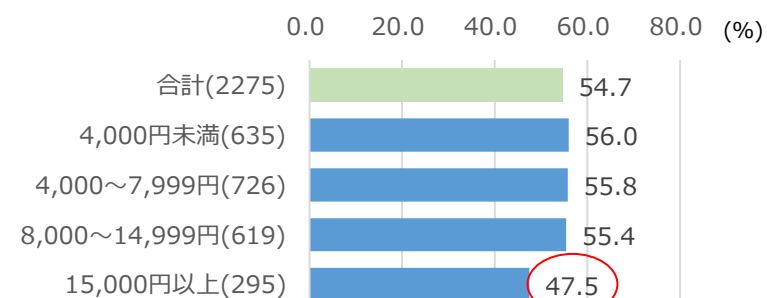
＜年間利用回数＞



＜直近利用サロンのスタッフ数＞



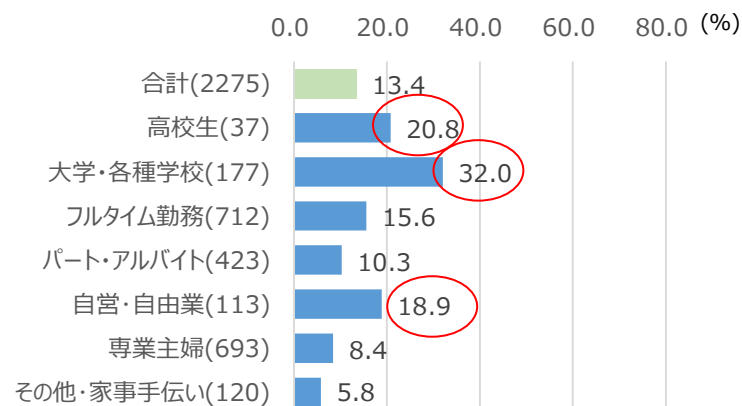
＜直近利用サロンでの使用金額＞



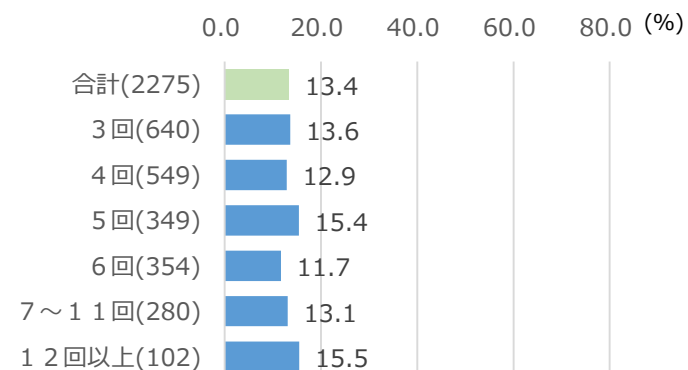
【新型コロナで外に出ないため身だしなみを気にしなくてよかった】

- 利用頻度が減った人のうち、「外に出ないため身だしなみを気にしなくてよかった」をあげたのは約13%です。
- 職業別にみると、大学・各種学校が突出しており、30%を超えています。高校生や自営・自由業も高い反応を示しています。

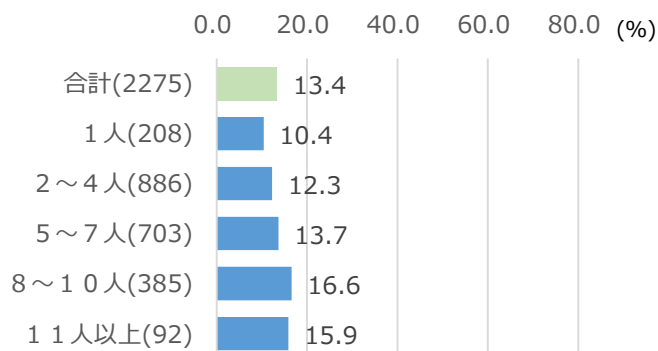
<職業>



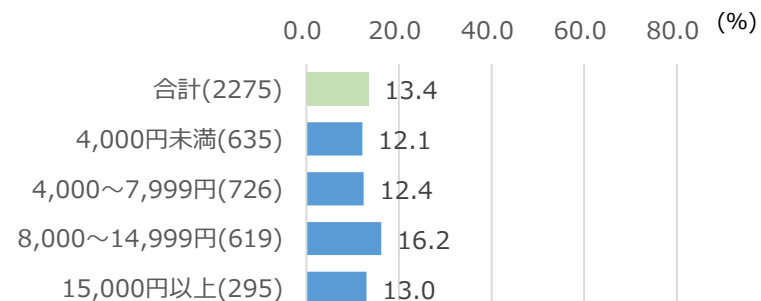
<年間利用回数>



<直近利用サロンのスタッフ数>



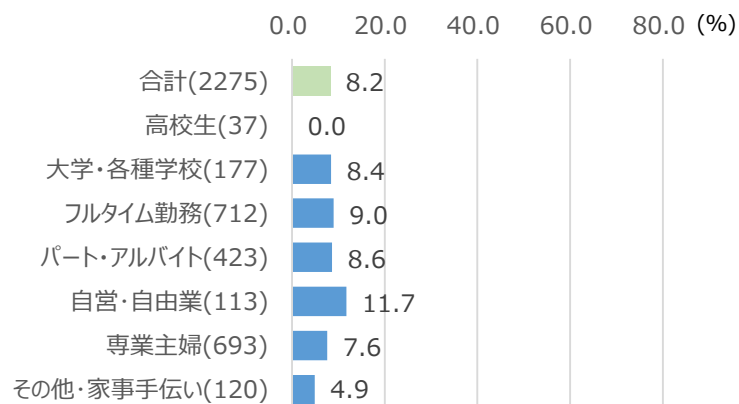
<直近利用サロンでの使用金額>



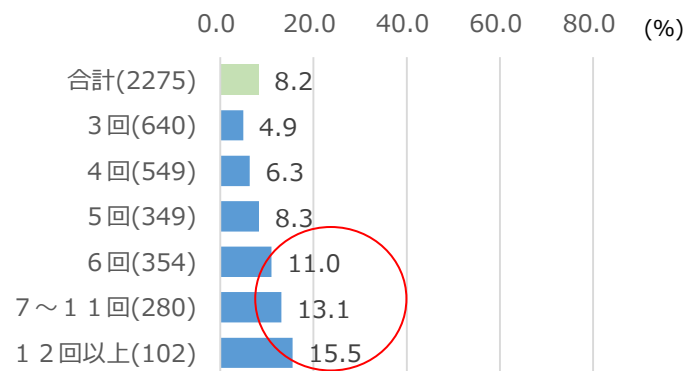
【新型コロナで普段通っている美容室が休業】

- 利用頻度が減った人のうち、「普段通っている美容室が休業」をあげたのは約8%です。
- 年間利用回数が多いほど、反応が高くなる傾向がみられます。
- スタッフ数別にみると、11人以上の大規模店利用者で高めのスコアになっています

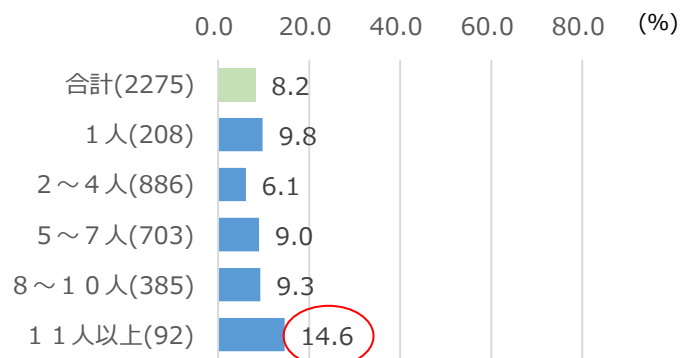
＜職業＞



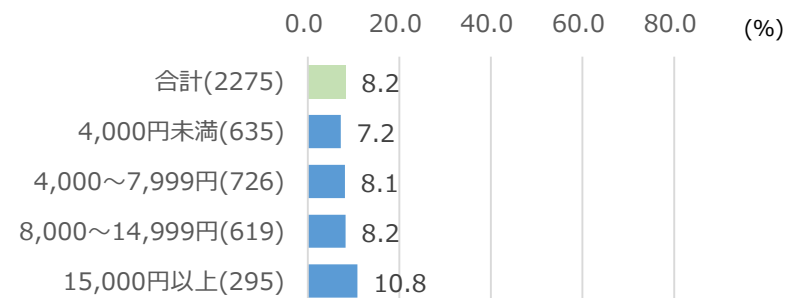
＜年間利用回数＞



＜直近利用サロンのスタッフ数＞



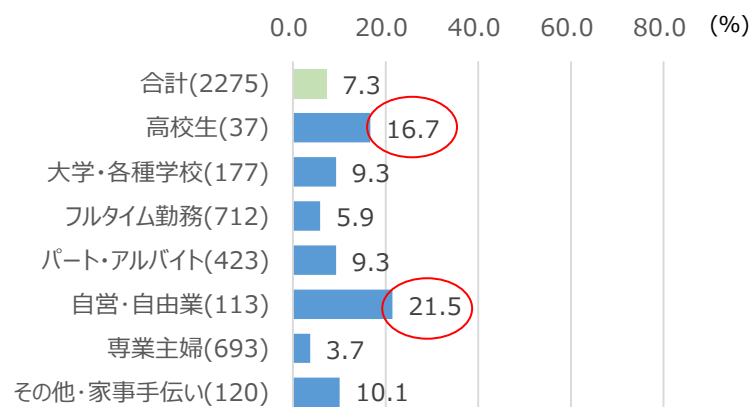
＜直近利用サロンでの使用金額＞



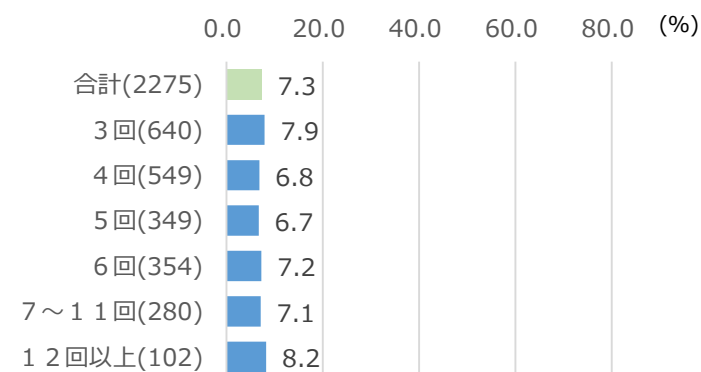
【 経済的理由（新型コロナで収入減） 】

- 利用頻度が減った人のうち、「経済的理由（新型コロナで収入減）」をあげたのは約7%です。
- 高校生や自営・自由業が高い反応を示しています。

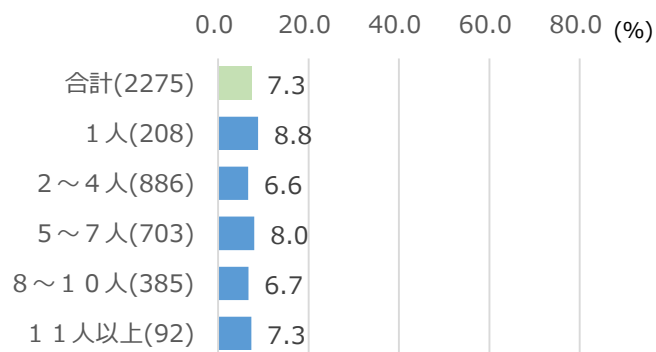
<職業>



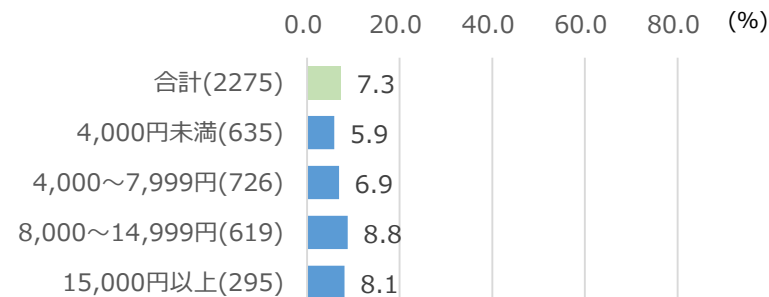
<年間利用回数>



<直近利用サロンのスタッフ数>



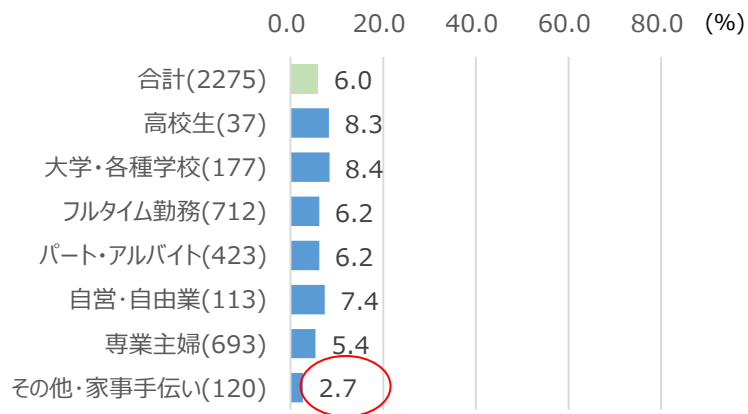
<直近利用サロンでの使用金額>



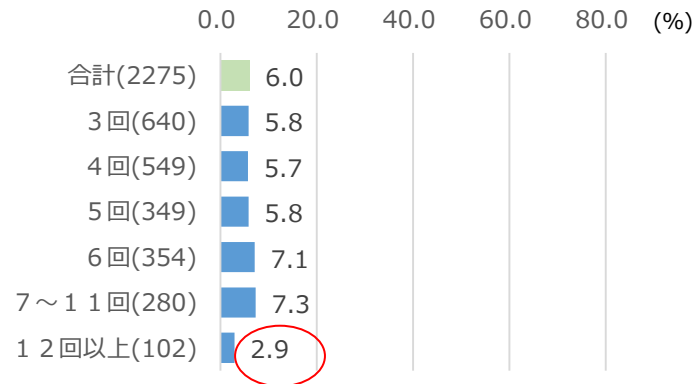
【 普段通っている美容室が遠方 】

- 利用頻度が減った人のうち、「普段通っている美容室が遠方」をあげたのは6%です。
- 職業：その他・家事手伝いや、年間利用回数12回以上、直近の使用金額4,000円未満の層ではさらに反応が低く3%前後です。

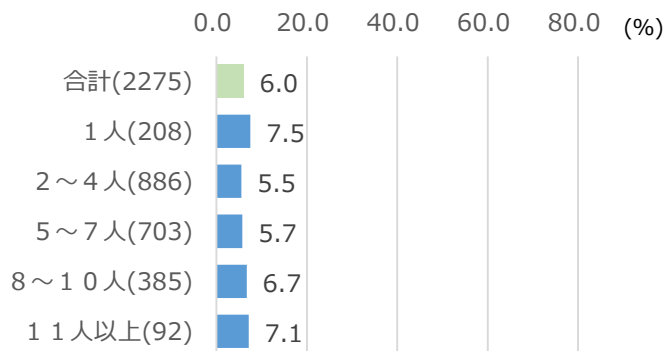
<職業>



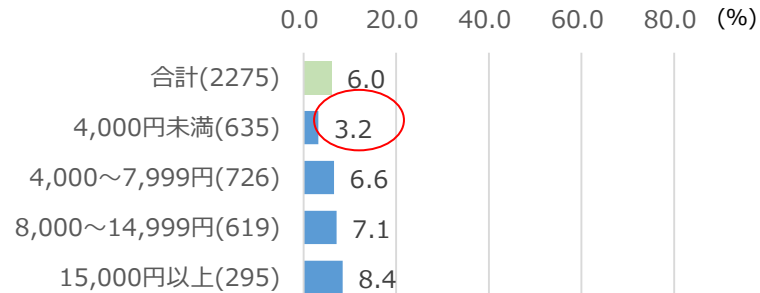
<年間利用回数>



<直近利用サロンのスタッフ数>

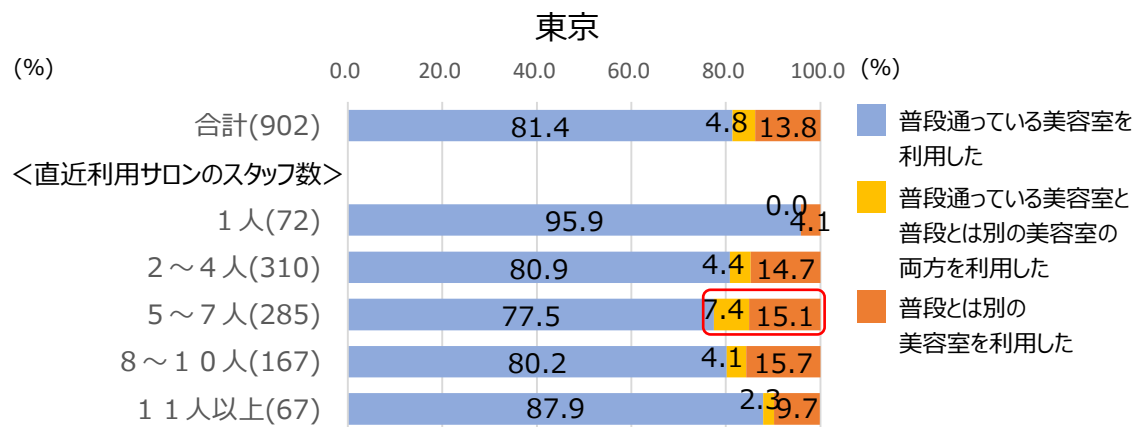
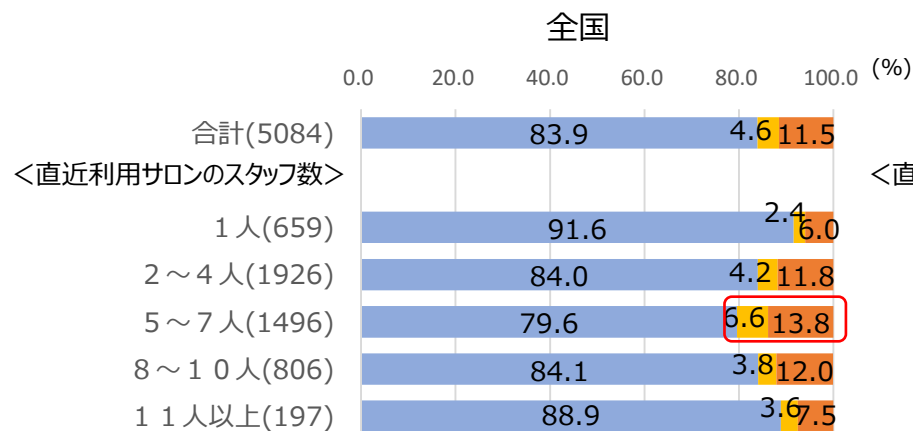
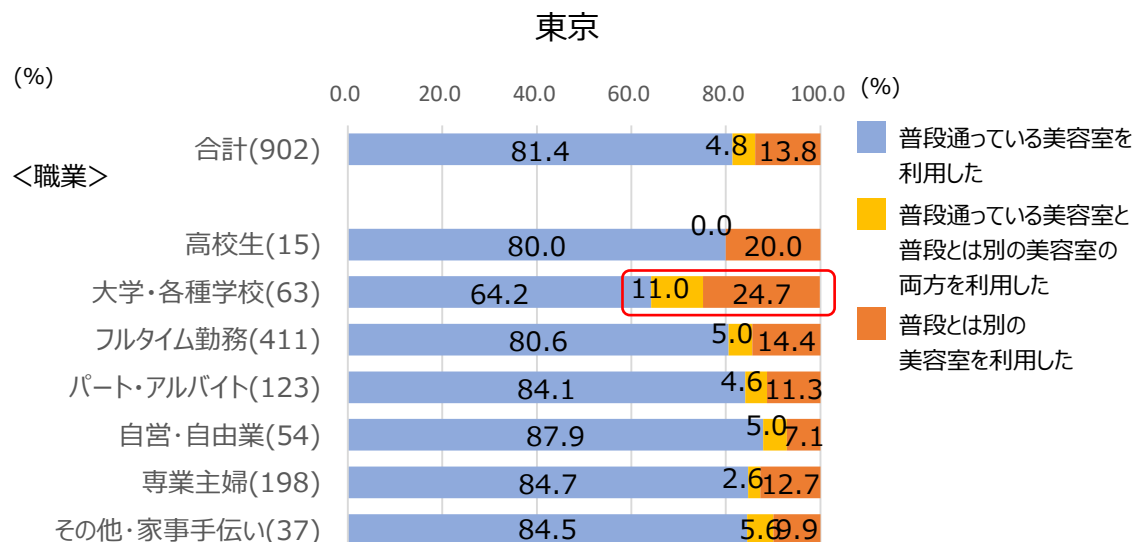
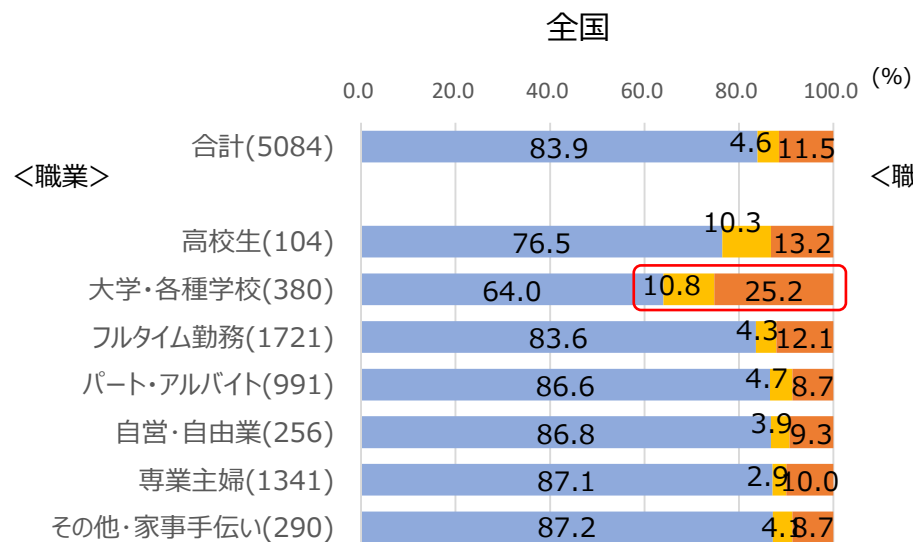


<直近利用サロンでの使用金額>



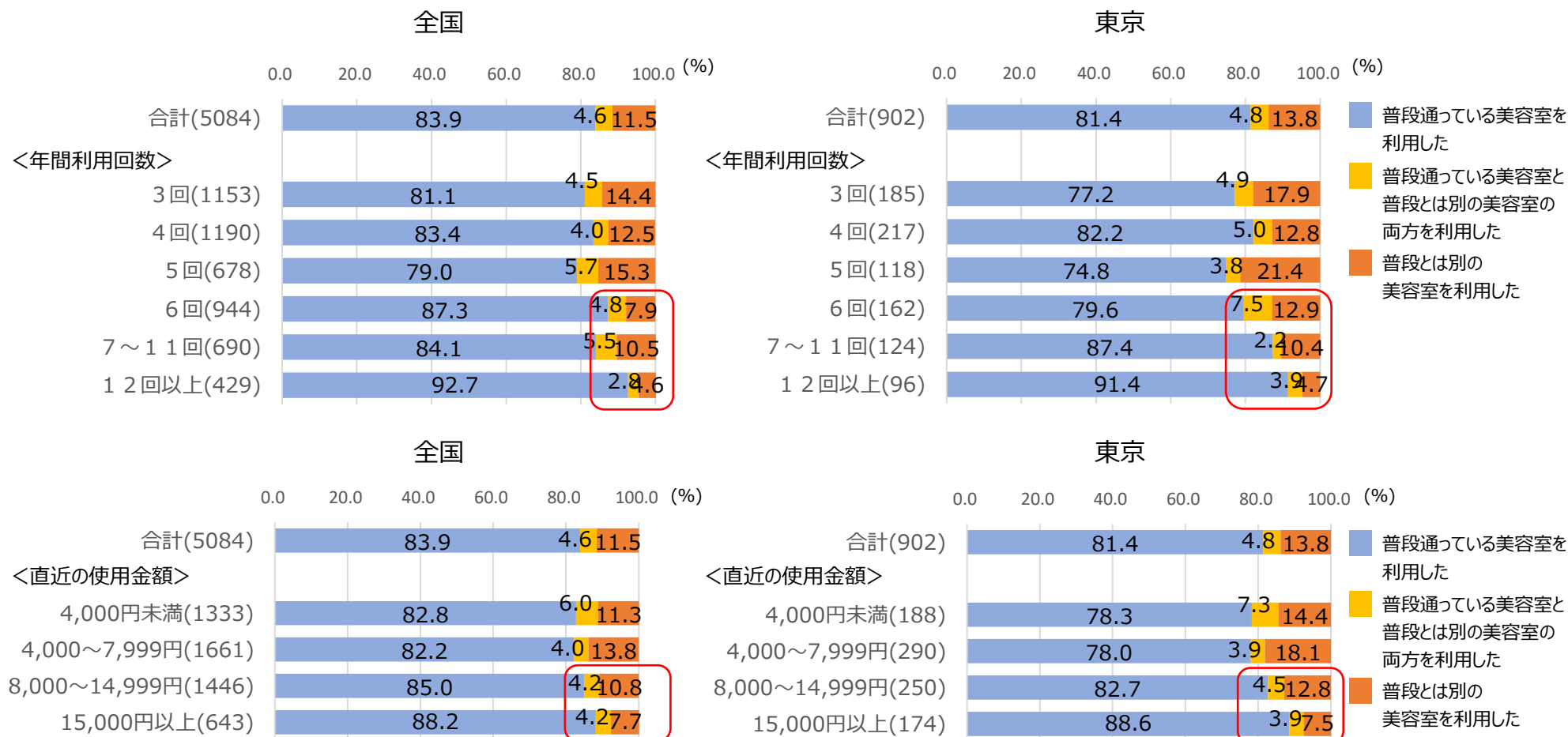
新型コロナの影響③ 利用したサロン[利用者]

- 普段とは別のサロンを利用した人は全体の約16%です。約84%は普段と同じ店だけを継続利用しました。
- 大学・各種学校生の約36%が普段とは違うサロンを(も)利用しました。これは新型コロナの影響だけでなく、普段から価格優先でより安い店を探している習慣的行動の顕れでもあると思われます。
- スタッフ数でみると、5～7人の店舗利用で、普段とは違うサロンの利用率が最も高くなっています。



新型コロナの影響③ 利用したサロン[利用者]

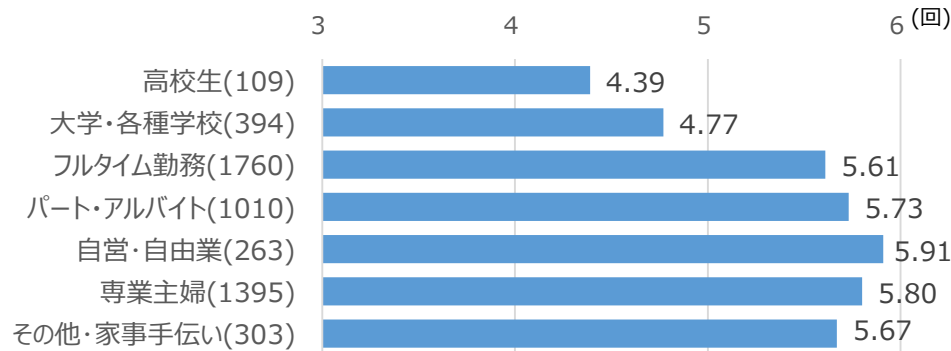
- 年間利用回数が多いほど、普段と違う店舗の利用率が下がる傾向がみられます。
- 直近の使用金額も、高いほど違う店舗の利用率が下がっています



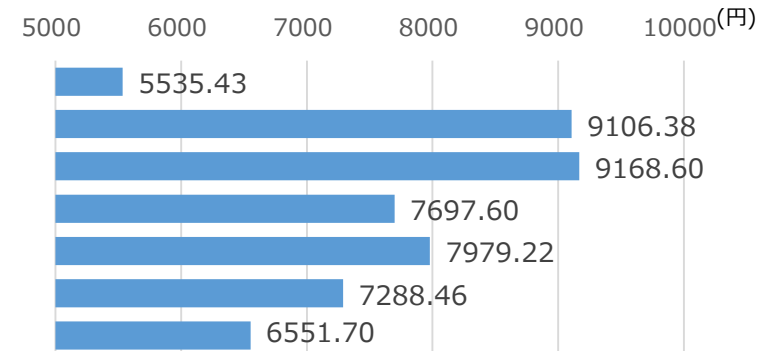
サロンの利用状況と職業の関係

- 高校生から大学・各種学校で、直近の使用金額やヘアカラーの利用率が大きく上がっています。ヘアスタイルを褒められたり、どこの美容室に行っているか尋ねられたりすることも増えています。
- 店販商品の購入は、学生のうちはあまり経験がないようですが、フルタイム勤務やパート・アルバイトなど有職者になると大きく増えています。

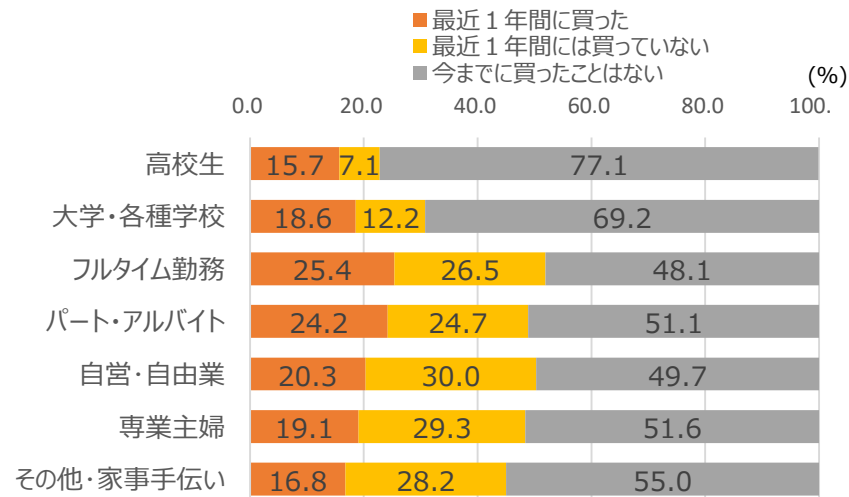
＜年間利用回数＞



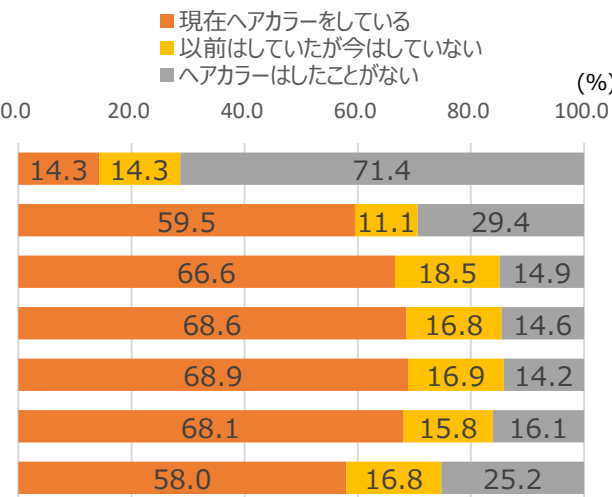
＜直近の使用金額＞



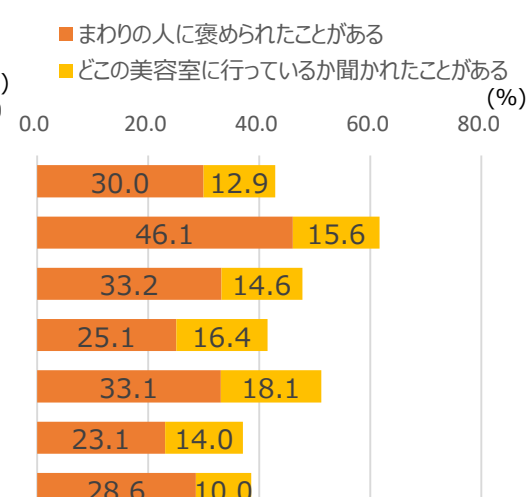
＜店販商品の購入経験＞



＜ヘアカラーの利用＞



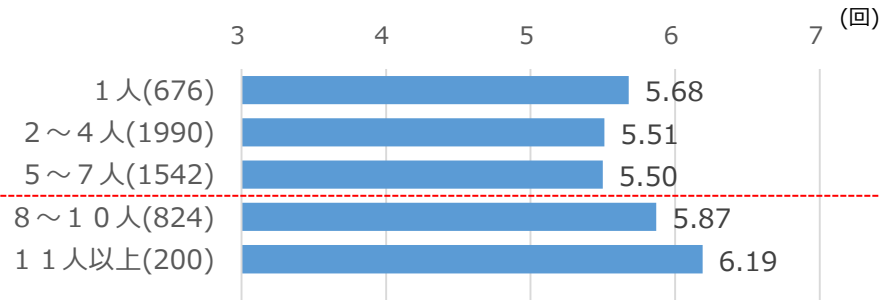
＜ヘアスタイルの評判＞



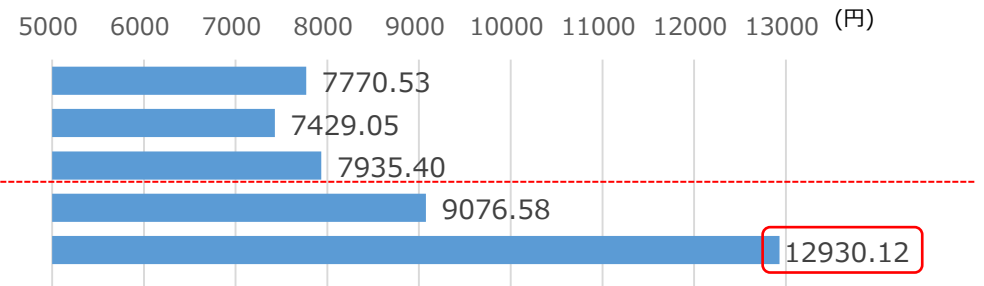
サロンの利用状況とスタッフ数の関係

- スタッフ数を軸に利用状況をみると、7人以下と8人以上で傾向の違いがみられます。
8人以上になると年間の利用回数、直近の使用金額、店販商品の購入経験などが上がっています。特に1人以上の大規模店利用者では顕著です。ヘアスタイルを褒められたり、どこの美容室に行っているか尋ねられたりすることも増えています。

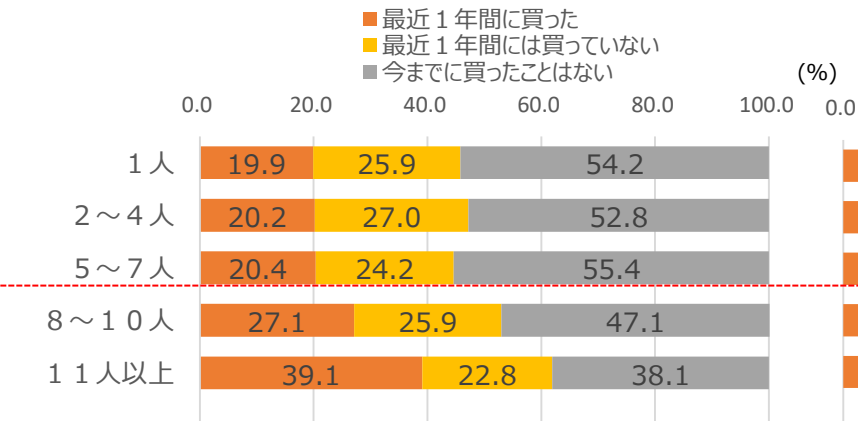
＜年間利用回数＞



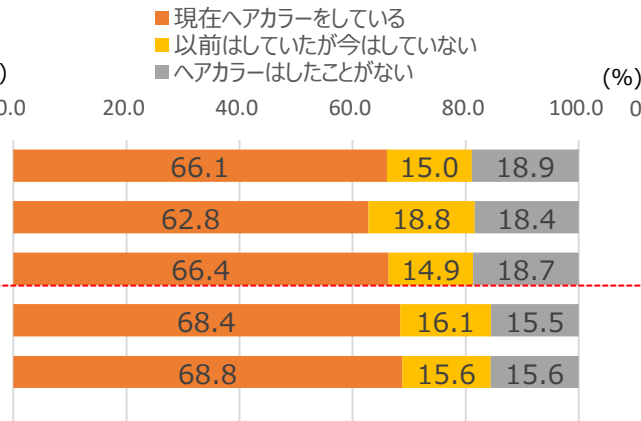
＜直近の使用金額＞



＜店販商品の購入経験＞



＜ヘアカラーの利用＞



＜ヘアスタイルの評判＞

